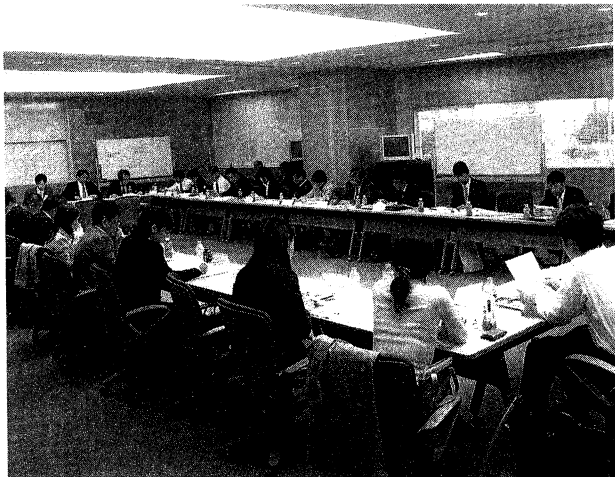


姫路港

客船寄港へ地歩固め

50周年機に“脱工業化”

全国クルーズ船誘致連絡会開催



来年、開港50周年を迎える姫路港の活性化へクルーズ客船の寄港を呼び込もうと、姫路港ポートセールス推進協議会(会長五百蔵俊彦副知事)が全国クルーズ客船誘致連絡会(本部東京)開催を誘致、10月31日、姫路で初めて開催された(写真)。

客船誘致やクルーズの振興組織は国土交通省、地方運輸局、業界団体が関係する外航クルーズ旅行振興全国協議会など全国に数団体あるが、同連絡会は、国内外のクルー

ズ客船の誘致に関して情報を交換、ノウハウを学ぼうと、全国の港湾管理者の客船誘致担当や港湾振興協会、埠頭公社などの実務者で01年に組織化。これまでに同年11月に東京で開催されたのを皮切りに、大阪、横浜、清水(静岡県)などで計20回開催されている。現在、北は北海道室蘭から南は沖縄県那覇など全国28の港がメンバーに加わっている。

姫路港は輸出入貿易総額が3800億円を超え開港以来の最高額を記録するなど、工業港の色合いが強い。一方、半世紀にわたる歴史の中で、クルーズ船は寄港地が急遽変更されたり、地元関係者のチャーター便が寄港するだけで、国際観光都

市を標榜するうえからも「工業港(一辺倒)からの脱皮へ積極的な誘致活動が課題とされてきた。このため地元の水田裕一郎・飾磨海運社長らの働きかけで約3年前に連絡会に加入、50周年を節目に誘致活動を本格化させようと、まず、同連絡会開催にこぎつけた。

「イーグレひめじ」で開かれた21回目の連絡会には22港から約40人が参加。10月に中国上海で開かれた「クルーズコンベンション」、地方毎のクルーズ振興協議会など関係団体の活動状況などの説明があり、日本クルーズ客船(本社大阪市)の担当者も交え▽誘致活動や歓迎レセプション事例▽今後の客船寄港スケジュールなど具体的な内容についても意見交換。

水田社長は「姫路港の機能、周辺観光地の説明などを通じて姫路の良さや利便性を知ってもらい機会にもなった。今後のクルーズ船寄港へ弾みになれば」と話した。

姫路港は、戦後の1951(昭和26)年に広畑、網干港を合わせた3港を包含、姫路港として重要港湾に指定され、59年4

月に開港。67年に国の特定重要港湾に指定されたのを機に岸壁建設など港内整備が進んでいる。来年4月で50周年を迎えるのを機に、8月には井戸敏三知事をトップに記念事業実行委員会が発足、

来年5月の大型連休から7月の「海の日」にかけて、記念式典やシンポジウム、子供対象のクルージング、釣り大会、姫路みなど祭りの花火大会、大型帆船「海王丸」寄港などのイベント計画を進めている。

来年、開港50周年を迎える姫路港の活性化へクルーズ客船の寄港を呼び込もうと、姫路港ポートセールス推進協議会(会長五百蔵俊彦副知事)が全国クルーズ客船誘致連絡会(本部東京)開催を誘致、10月31日、姫路で初めて開催された(写真)。